

診断用X線装置RADspeed PRO SR5 Versionの使用経験について



松田 晃治 先生

市立伊丹病院 放射線科
松田 晃治

1. 病院概要

市立伊丹病院 (Fig.1) は兵庫県伊丹市に位置しており、安全で良質な信頼される医療を提供し、地域医療の発展に貢献することを理念としている。

414床の病床数と30の診療科を有しており、急性期病院として地域の中核を担っている。



Fig.1 病院概観

また当院は、近畿中央病院との統合を予定しており、基幹病院と健康管理施設からなる統合新病院の開院を目標としている (Fig.2)。

開院後は地域に信頼される安全で安心な医療の提供、健康づくりの推進の二つを基本理念に掲げ、より充実した医療機関を目指していく。



Fig.2 統合新病院完成予想図

放射線科は現在17名の診療放射線技師が在籍しており、幅広い検査に対応するため日々研鑽に努めている。

一般撮影室は外来撮影室3部屋・救急撮影室1部屋の計4部屋あり、毎月約2,500件の撮影を行って

いる。

統合新病院開院の際には、一般撮影室が計5部屋になることにより、撮影件数の増加が見込まれる。

今回一般撮影装置の更新に伴い、外来撮影室にRADspeed Pro SR5 Versionが導入されたため、使用した現場の声を報告する。

2. 装置 (RADspeed Pro SR5 Version) の特徴

従来機種 (島津製作所社製診断用X線装置) と比較して、発生器操作卓モニタが全面タッチパネル式に変わったことで、検査情報の表記が見やすくなったことや、これまでダイヤル式だった線量調整等の操作がしやすくなったと感じた (Fig.3)。

また後に記載する光学カメラアプリケーションの映像も操作卓モニタから確認することが可能である。

X線管懸垂器 (Fig.4) も従来機種と比較して操作部の液晶画面が大きくなっており、患者情報等の確認が懸垂器操作部側からしやすくなった。



Fig.3 発生器操作卓



Fig.4 X線管懸垂器